

事務事業実績測定調査

R4調書番号 233

事務事業名称	教育研究会補助事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標		16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち								
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業		
事業期間	不明		年度	～	年度まで		
根拠法令等	決裁						
関係補助金名称	枚方市教育研究会補助金			サンセット	2020(R2)年度	～	2022(R4)年度
関係附属機関名称							
事業対象	メインターゲット	教職員(枚方市立学校園)					
	サブターゲット	枚方市立学校園に在籍、在園する園児、児童、生徒					
	ターゲットが抱える課題	教育現場における諸課題の解決や授業改善等が進まず、学校運営に支障を来している。					
	ターゲットが抱える課題						
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	教職員の資質向上及び授業改善等が図られ、着実に園児・児童・生徒に学校教育が身に付いた状態						
事業概要	学習指導要領への対応等に向けて、教職員で構成される枚方市教育研究会に対して補助を行うことにより、研究・研修等を通じて教職員の資質向上に資する。						

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)					
	教職員の資質向上及び授業改善等が図られる。	研修会等の研究会の活動推進により、教職員が授業改善等を図ることができる機会が増える。				枚方市教育研究会へ補助金を交付することにより、研修会等の研究会の活動が推進される。								
指標設定	指標説明	教職員研修に関する事後活用調査における「受講した研修内容と所属校等のどの場面で伝達・共有・実践・活用しましたか。」という問いに対し、何らかの場面で伝達・共有・実践・活用したと回答した割合 【算出式: 上記アンケートで何らかの場面で伝達・共有・実践・活用したと回答した教職員 / 研修受講教職員 * 100】				研究会活動参加延べ人数				研究会活動回数				
		単位	%			単位	人			単位	回			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	目標 (見込み)	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		実績	100	100	100	100	4,600	4,600	4,600	4,600	230	230	230	230
達成度	0%				0%				0%					

3. 人員体制

(人)

	R4実績
正職員	0.00
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	0	0	0		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	0	0	0		
	物件費計	0	0	0	1	0.0%
	歳出計	0	0	0		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	0	0	0	1	

5. 総括的分析

総括的分析	教員個人や個別グループそれぞれによる自主的な研修が定着しており、本研究会が主体となって実施する中～大規模な研修が必要とされていない状態にある。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	廃止
今後の取り組み方針	教員個人・個別グループでの研修が定着している実態から令和4年度をもって廃止した。

事務事業実績測定調書

R4調書番号 237

事務事業名称	中学校体育連盟補助事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標		16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち								
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	不明	年度	～		年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称	中学校体育連盟補助金	サンセット	2023(R5)年度	～	2025(R7)年度
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市立中学校運動クラブに在籍する生徒			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	中学校体育連盟に補助金交付しなければ各種大会への参加に支障来たす。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	各種大会に支障なく参加できる状態				
事業概要	<p>枚方市中学校体育連盟に対して補助を行うことにより、中学校の部活動の振興・充実を図り、生徒の責任感・連帯感を育む。</p> <p>◆枚方市中学校体育連盟は北河内地区中学校体育連盟と大阪中学校体育連盟に加盟しており、すべての中学校の各部が公式試合に参加できるよう、連盟加盟金を補助する。</p> <p>◆16種目の専門部ごとに開催する市内の公式試合へ参加</p> <p>◆全国中学校体育連盟主催の総合体育大会につながる公式試合へ参加</p>				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)				インプット (活動)						
		中学校の部活動の振興・充実につながる。	実力に応じた上位の公式試合に参加する機会が増える。				枚方市中学校体育連盟に対して補助金の支援をすることにより、市内の公式試合が開催され、上位成績者は北河内や大阪府の公式試合へ参加できる。						
指標設定	指標説明	全生徒数に対する運動部所属の生徒の割合 【算出式:運動部所属の中学生数 / 全中学生数 * 100】				上位大会への出場大会数				市等公式大会開催回数			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	70	70	70	70	5	5	5	5	38	38	38	38
	実績	68	69	70		3	15	4		29	39	42	
達成度	100%				80%				111%				

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.01
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	正職員、再任用、任期付	80	79	78		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	80	79	78		
	物件費計	1,297	1,314	1,317	1,370	96.1%
	歳出計	1,377	1,393	1,395		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人員配置については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	1,297	1,314	1,317	1,370	

5. 総括的分析

総括的分析	各種競技の公式大会が開催され本市生徒の活躍があったことや、運動部所属の生徒も相当数あること等から、当該補助金は大会開催等、部活動運営に果たす役割は大きく、不可欠なものである。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	今後も全学校園で教員の授業力向上等のため、本事業を継続する。

事務事業実績測定調書

R4調書番号 242

事務事業名称	部活動等遠征費補助事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち								
	施策目標		16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち								
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業	
事業期間	不明	年度	～		年度まで	
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称	部活動等遠征費補助金		サンセット	2023(R5)年度	～	2025(R7)年度
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	全国大会及び近畿大会等の対外試合に出場する生徒				
	サブターゲット					
	ターゲットが抱える課題	全国大会や近畿大会等の対外試合への参加に係る宿泊費用等が生じる。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	中学校部活動の振興及び広く市民の意識高揚等に資する状態					
事業概要	全国大会及び近畿大会等の対外試合に出場する生徒の遠征に係る費用に対して部活動遠征費を補助することにより、部活動の振興・充実を図り、生徒の責任感・連帯感を育み、中学校の部活動を助成する。					

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		選手は交通費及び宿泊費の補助を受けることで、全国大会及び近畿大会等の対外試合に出場できる。				申請に対し、内容確認のうえ、適切に交付する。				遠方で開催される全国大会や近畿大会等の対外試合に出場する生徒の遠征に係る交通費・宿泊費に対して、補助の申請を受け付ける。			
指標設定	指標説明	補助金を受けて大会出場した生徒の人数				補助金交付対象生徒人数				補助金申請校数			
		単位		人		単位		人		単位		校	
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	実績	90	45	45	45	45	45	45	45	5	5	5	5
達成度	4	66	81		4	67	82		3	8	9		
	180%				182%				180%				

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.12
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	239	471	937		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	239	471	937		
	物件費計	80	1,887	1,210	800	151.3%
	歳出計	319	2,358	2,147		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	80	1,887	1,210	800	

5. 総括的分析

総括的分析	補助金交付に係る適正な事務執行により、部活動の振興・充実に寄与している。
-------	--------------------------------------

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	当該補助金制度は部活動の振興、充実につながるものであるが、制度の在り方については検討を進めていく。

事務事業実績測定調書

R4調書番号 397

事務事業名称	英語教育推進事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち									
	実行計画名	16-1.自ら考え生きる力と学力を育む教育の推進									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2006(H18)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市立小中学校に在籍する児童・生徒			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	英語が苦手であることを端緒として、外国人と交流できない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	英語によるコミュニケーション能力の向上及び国際性を身に付けた人材の輩出された状態				
事業概要	子どもたちの英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、小・中学校の英語教育を推進するため、小・中学校間で連携しながら、外国人英語教育指導助手(NET)や日本人英語教育指導助手(JTE)を配置する。全中学校に各校1人の外国人英語教育指導助手(NET)、全小学校に日本人英語教育指導助手(JTE)を配置し、「読む」「書く」「聞く」「話す」力をバランスよく育む授業の実践と、児童・生徒の英語学習への意欲を高める取り組みを実施する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)
	児童・生徒の英語への苦手意識が解消され、英語への意欲や異文化を理解しようとする資質が向上する。	園児・児童・生徒が授業を通じて外国人との交流を行う。	小・中学校に外国人英語教育指導助手(NET)を配置し、授業を行う。
指標説明	児童・生徒アンケートにおいて肯定的な評価(「外国の人と話したり、接したりしたいと思う」)の割合 【算出式: 肯定的回答/回答者総数*100】	NETの年間授業時間数	NETの配置日数
	単位	単位	単位
指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
指標数値	目標 (見込み)	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5
	実績	69 72 75 80	1,520 2,280 2,500 2,500
達成度	71 73 76	17,784 19,575 18,774	4,368 4,576 4,576 4,576
	101%	751%	91%

ロジックモデル②		アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)				インプット (活動)						
		児童・生徒の英語への苦手意識が解消され、英語への意欲や異文化を理解しようとする資質が向上する。	児童が授業を通じて英語を使用する機会が増える。				小学校に日本人英語教育指導助手(JTE)を配置し、授業を行う。						
指標設定②	指標説明	児童・生徒アンケートにおいて肯定的な評価(「外国の人と話したり、接したりしたいと思う」)の割合【算出式: 肯定的回答/回答者総数*100】				JTEによる授業のコマ数				JTE活動延べ日数			
		単位		%	単位		時間	単位		日			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	69	72	75	80	19,296	19,296	19,296	19,296	4,288	4,288	4,288	4,288
	実績	71	73	76		17,671	16,317	17,199		3,927	3,626	3,822	
	達成度	101%				89%				89%			

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.75
再任用	0.00
任期付職員	3.00
会計年度任用職員	30.76
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額 (千円)

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	正職員、再任用、任期付	21,362	21,721	18,699		
	会計年度任用職員	109,797	134,321	130,059		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	131,159	156,042	148,758		
	物件費計	21,508	15,385	14,588	14,442	101.0%
	歳出計	152,667	171,427	163,346		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料、手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	0	0	
	一般財源(物件費に充当されるもの)	21,508	15,385	14,588	14,442	

5. 総括的分析

総括的分析	全小学校にJTE又は外国語専科教員、全中学校にNET、小学校を巡回するNET-Eを2名配置し、「外国の人と話したり、接したりしたいと思う」の肯定的な回答の割合は目標値を上回っている。しかし、JTE・NETともに欠員が生じているために、JTE・NETによる授業のコマ数及び、JTE・NETの活動延べ日数は、目標値を下回っており、人材の安定的な確保が課題である。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	人材確保のための広報の充実と、研修などを充実させ、人材育成に努める。

事務事業実績測定調査

R4調査番号 398

事務事業名称	読書活動推進事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち									
	実行計画名	16-1.自ら考え生きる力と学力を育む教育の推進									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2014(H26)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	学校図書館教育事業計画書、学校図書館法、学習指導要領等				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市立小中学校に在籍する児童・生徒			
	サブターゲット	枚方市立小中学校に勤務する教職員			
	ターゲットが抱える課題	読書に対する興味が持てない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	読書により言語能力及び幅広い知識等を習得した人材の輩出された状態				
事業概要	子どもたちの読書活動を推進し、授業において問題解決や探究活動に取り組む力を育むため、市内の小中学校に学校司書を配置し、市立図書館と連携しながら学校図書館の有効活用に取り組む。読書活動を推進し、児童・生徒の言語能力を育むため、全中学校区を実践研究校区として学校司書を配置するとともに、司書教諭と連携しながら、義務教育9年間を見通した読書活動の充実を図る。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		児童・生徒の読書への苦手意識が解消され、読書活動への意欲が高まる。				児童・生徒が学校図書館を活用する機会が増える。				小中学校に学校司書を配置し、学校図書館を授業に活用する。			
指標設定	指標説明	読書が好きな児童・生徒の割合 【算出式:「読書が好き」と答えた児童・生徒/アンケート回答児童・生徒数×100】				授業等で調べ物をする時、学校図書館で調べる児童・生徒の割合 【算出式:「授業等で調べ物をする時、学校図書館で調べる」と答えた児童・生徒数/アンケート回答児童・生徒数×100】				授業に学校図書館を活用した回数			
		単位		%		単位		%		単位		回	
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	小80,中66	小82%,中68	小84,中70	小85,中72	38	40	42	45	2,150	3,350	4,450	5,750
	実績	0	0	小72.6,中67.3		27.80	42	0		1,734	6,838	10,502	
	達成度	小86.4%,中96.1%				0%				236%			

3. 人員体制

(人)

	R4実績
正職員	0.50
再任用	0.00
任期付職員	17.82
会計年度任用職員	2.43
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	72,450	83,188	80,176		
	会計年度任用職員	5,572	6,747	6,791		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	78,022	89,935	86,967		
	物件費計	196	97	137	298	46.0%
	歳出計	78,218	90,032	87,104		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	196	97	137	298	

5. 総括的分析

総括的分析	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大による、学校図書館活用の制限については、令和4年度において解除はされたものの、2年間の貸出制限、使用制限による利用減少の影響が未だ続いており、特に読書の時間がある小学校においては、その影響が顕著に見られた。</p> <p>各アンケート結果において、該当するアンケートが全国学力・学習状況調査、児童・生徒質問紙調査において、項目が削除されていたものは、「0」と記載している。</p> <p>授業に学校図書館を活用した回数については、令和4年度に、学校司書配置小学校の数を、12校から20校へと増加させたため、それに伴い、著しく増加した。</p>
-------	---

6. 今後の方向性

区分	拡充
今後の取り組み方針	読書活動の確立や情報活用能力の育成には、長期的かつ計画的な取組みを推進・充実させることが必要であるため、引き続き、学校司書配置校の拡充を進める。

事務事業名称	学力向上推進事業(放課後自習教室事業)										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち									
	実行計画名	16-1.自ら考え生きる力と学力を育む教育の推進									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	2007(H19)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市立小中学校に在籍する児童・生徒			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	学習意欲が低く、学業成績が振るわない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	学習意欲が高まることにより自学自習力が身に付き、学業成績が向上した状態				
事業概要	児童・生徒の学習意欲を高め、自学自習力を育むとともに、基礎学力の向上を図るため、民間委託等を活用した放課後自習教室や放課後学習教室を実施し、学習機会の充実を図る。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		児童・生徒の基礎学力の向上が図られ、自学自習力が身に付くことで、学習意欲の高まりにつながる。				児童・生徒が参加し、各自の理解度に応じて学習を行う。				放課後自習教室等を実施する。			
指標設定	指標説明	利用率 【算出式:参加児童・生徒数/登録者*100】				放課後自習教室等の参加人数				放課後自習教室等の実施回数			
		単位		%		単位		人		単位		回	
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		目標 (見込み)	60	70	80	90	1,500	1,500	1,500	1,500	2,670	1,669	1,645
	実績	86	73	65		1,601	2,077	1,827		1,669	1,657	1,689	
	達成度	81%				122%				103%			

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.95
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	正職員、再任用、任期付	8,055	7,464	7,421		
	会計年度任用職員	5	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	8,060	7,464	7,421		
	物件費計	57,751	57,907	60,235	61,075	98.6%
歳出計		65,811	65,371	67,656		
歳入	国庫支出金	17,330	21,549	12,843	12,915	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	17,330	21,549	12,843	12,915	
一般財源（物件費に充当されるもの）		40,421	36,358	47,392	48,160	

5. 総括的分析

総括的分析	コロナ禍であったが、感染症予防対策を講じた上で放課後自習教室を実施し、目標よりも高い参加人数となった。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	見直し
今後の取り組み方針	令和5年度より小学校の放課後自習教室については、総合型放課後事業「放課後オープンスクエア」に整理統合した。「放課後オープンスクエア」においては、指導員がサポートする中で、AIドリルを使用して常時教科学習ができる環境を提供するとともに、教科学習だけでなく児童個人の自主性にゆだねた学びの場として、日時を拡充して実施する。中学校は引き続き、生徒の学力向上に向けて、本事業を推進していく。

事務事業実績測定調査

R4調書番号 400

事務事業名称	小・中学校運営事務										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち									
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的	事務	区分	庶務的	内部管理	事務
事業期間	2009(H21)年度		年度	～			年度	まで
根拠法令等	決裁							
関係補助金名称				サンセット		～		
関係附属機関名称								
事業対象	メインターゲット	教職員						
	サブターゲット	枚方市立小・中学校の児童・生徒						
	ターゲットが抱える課題	各要領で求められている教育、クラブ活動及び部活動について、円滑に運営を図る必要がある。						
	ターゲットが抱える課題							
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	小学校学習指導要領・中学校学習指導要領で求められている教育が円滑に推進できるとともに、小学校クラブ活動・中学校部活動等、小・中学校において必要な経費が適正に管理、運用されている状態。							
事業概要	小・中学校の運営経費を適正に管理することで、教育課程に沿って円滑に学校運営に資することを目的として、教員用の教科書及び指導書の購入、修学旅行、校外学習等の教育活動に要する教職員等の入場料・見学科等を支出する。							

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
指標設定	指標説明													
	指標種類													
	指標数値	目標 (見込み)												
		実績												
	達成度													

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	3.30
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	8.10
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	正職員、再任用、任期付	29,348	26,714	25,780		
	会計年度任用職員	0	22,065	18,117		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	29,348	48,778	43,897		
	物件費計	130,964	64,470	18,422	26,847	68.6%
歳出計		160,312	113,248	62,319		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人員配置については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	35	37	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	35	37	
一般財源（物件費に充当されるもの）		130,964	64,470	18,387	26,810	

5. 総括的分析

総括的分析	小・中学校運営において必要とする予算の確保及び執行を適正に行い、円滑な学校運営に資することができた。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	小・中学校運営の円滑な推進に向けて、引き続き、適時、適正な予算確保及び支出について所要の事務を執行していく。

事務事業実績測定調査

R4調書番号 401

事務事業名称	小中一貫教育推進事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち									
	実行計画名	16-1.自ら考え生きる力と学力を育む教育の推進									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2016(H28)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市立小中学校に在籍する児童・生徒			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	学習指導要領が求める学力を習得していない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	学習指導要領が求める学力を習得している状態				
事業概要	<p>子どもたちの「確かな学び」と「自立の力」を育み、グローバル時代をたくましく生きぬく子どもを育成するため、各中学校区がそれぞれの現状や課題に応じながら、特色を活かした小中一貫教育を推進する。</p> <p>○学力向上の取り組みとして、義務教育9年間を見通した学力向上の取り組みを推進するため、全中学校区に「小中一貫・学力向上推進コーディネーター」を核とした組織体制を確立し、「授業改善」及び「家庭学習の定着」に向けた取り組みの充実を図る。また、全国学力・学習状況調査結果を分析・活用した学力向上プランを作成し、児童・生徒の学力向上に取り組むとともに、小・中学校における学年会や教科会、学力向上委員会を定期的に開催することで、授業研究や教材・教具等の充実を図り、教職員の授業力向上と授業改善に努める。</p> <p>○指導体制の充実として、子どもたちの「確かな学び」と「自立の力」を育み、グローバル時代をたくましく生きぬく子どもを育成するため、小学1年生から4年生までは35人学級編制、小学校第5・6学年において、一部教科担任制や習熟度別指導・ティームティーチング等の少人数指導、中学校では、習熟度別指導等を含む少人数指導など、児童・生徒の発達段階に応じた指導体制の充実を図る。</p> <p>○体力向上の取り組みとして、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果等を分析・活用し作成した体力向上推進計画に基づき、各学校の児童・生徒の実態に合わせた取り組みを授業時間や休憩時間等、学校の教育活動全体で推進する。</p>				

2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		児童・生徒の確かな学力の定着が進む。				児童の発達状況を踏まえた効果的な専科指導に向けて、専科教員と学級担任等との協議、検討が行われる。				全中学校区に「小中一貫・学力向上推進コーディネーター」を核とした組織体制を確立するとともに、小学校において、専科指導(特定の教科を特定の教員が専任した指導)を実施する。			
指標設定	指標説明	全国学力・学習状況調査における全国平均正答率から見た本市の平均正答率 【算出式: 枚方市の平均正答率 / 全国平均の平均正答率】				学力向上委員会や教科会、学年会等の開催回数				加配教員(配置定数上乘せ教員)を活用した専科指導実施小学校			
		単位		倍		単位		回		単位		校	
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)	1.01以上	1.01以上	1.01以上	1.01以上	1,575	1,575	1,540	1,540	20	25	30	35
実績	0	0.98	1.01		1,575	1,575	1,540		22	26	29		
達成度	100%				100%				97%				

ロジックモデル②		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		児童・生徒の確かな学力の定着が進む。				小中一貫・学力向上推進コーディネーターを中心にして、生徒の習熟度に応じた授業実施に向けて教科担任等との協議、検討が行われる。				中学校において、少人数指導や専門のコーディネーターの配置など指導体制を充実させるとともに、学力向上に向けた取り組みを実施する。			
指標設定②	指標説明	全国学力・学習状況調査における全国平均正答率から見た本市の平均正答率 【算出式: 枚方市の平均正答率 / 全国平均の平均正答率】				学力向上委員会や教科会、学年会等の開催回数				学力向上に特化したコーディネーターの配置校			
		単位		倍		単位		回		単位		校	
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	1.01以上	1.01以上	1.01以上	1.01以上	665	665	665	665	19	19	19	19
	実績	0	0.98	1.01		665	665	665		19	19	19	
達成度	100%				100%				100%				

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.52
再任用	0.00
任期付職員	5.00
会計年度任用職員	2.20
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

(千円)

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	正職員、再任用、任期付	26,962	26,621	25,462		
	会計年度任用職員	12,960	13,869	13,336		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	39,922	40,490	38,798		
	物件費計	504	0	0	0	
歳出計		40,426	40,490	38,798		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
	府支出金	0	0	0	0	※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	受益者負担(使用料、手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	0	0	
一般財源(物件費に充当されるもの)		504	0	0	0	

5. 総括的分析

総括的分析	概ね計画通りに進捗している。学力向上に特化したコーディネーターを中心に、義務教育9年間を見通した学力向上に向けた取組みの一層の充実を図る必要がある。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	引き続き、子どもたちの「確かな学力」と「自立した力」を育むために、各中学校区が現状や課題に応じた特色を活かした小中一貫教育を推進していく。

事務事業名称	コミュニティ・スクール推進事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち									
	実行計画名	16-2.快適で安心できる学習環境づくり									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	2016(H28)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市立小学校に在籍する児童			
	サブターゲット	教職員(枚方市立小学校)			
	ターゲットが抱える課題	子どもを取り巻く環境が大きく変化中、学校現場だけで課題解決できない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	学校運営に地域住民や保護者が参画する体制が構築できた状態				
事業概要	枚方市教育振興基本計画の基本方策6「社会に開かれた学校づくりの推進」のため、コミュニティ・スクールを設置し、地域全体で教育に取り組む体制を構築する。保護者や地域住民等から構成され、学校運営や運営への必要な支援に関して協議する学校運営協議会をすべての小学校に設置する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
		地域とともにある学校づくりが推進される。				地域全体で教育に取り組む体制が構築される。				コミュニティ・スクールを設置する。			
指標設定	指標説明	「コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人の協働による活動を行いましたか」に対する肯定的回答(4段階中4及び3)の割合 【算出式: 肯定的回答/回答者総数*100】				学校運営協議会開催回数				コミュニティ・スクールの設置校数			
		単位		%	単位		回	単位		校			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	実績	100	100	100	100	135	135	132	132	45	45	44	44
達成度	100%				100%				100%				

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.45
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	182.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	正職員、再任用、任期付	2,472	2,357	3,515		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	2,015	1,871		
	附属機関委員	1,820	0	0		
	人件費計	4,292	4,372	5,386		
	物件費計	207	230	272	440	61.8%
	歳出計	4,499	4,602	5,658		
歳入	国庫支出金	0	41	22	73	※「正職員、再任用、任期付」の人員配置については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	41	22	73	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	207	189	250	367	

5. 総括的分析

総括的分析	概ね計画通りに進捗している。社会に開かれた学校の実現のため、各校区で取り組みが進められている。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	協議会の質の向上をはかり、より社会に開かれた学校づくりを目指していく必要がある。

事務事業実績測定調書

R4調書番号 403

事務事業名称	学校園活性化事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち									
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1998(H10)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	教職員(枚方市立学校園)			
	サブターゲット	枚方市立学校園に在籍、在園する園児、児童、生徒			
	ターゲットが抱える課題	教育現場における諸課題の解決や授業改善等が進まず、学校運営に支障を来している。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	教職員の資質向上及び授業改善等が図られ、学習指導要領等が求める教育課程を着実に執行できる状態				
事業概要	全学校園を学校園活性化推進校園として指定し、教育課題の解決や教職員の資質向上を図るため、校(園)内研修の充実を進めるとともに、年1回以上教職員対象の公開授業を実施し、授業改善等の取り組みを推進する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)				インプット (活動)							
	教職員の資質向上及び授業改善等につながる。	教職員間で教育課題の共有がなされ、解決手法等に関する検討を行う。				公開授業を実施する							
指標説明	研究成果を上げた学校園の割合 【算出式:成果を上げた学校園数 /全学校園数*100】	公開研究授業の参加教員人数				外部講師を招聘した公開研究授業及び校内研修の実施回数							
	単位	%	単位	人	単位	回							
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標								
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
	目標 (見込み)	100	100	100	100	7,000	7,000	7,000	7,000	200	200	200	200
	実績	100	100	100		5,165	8,259	9,075		193	279	286	
達成度	100%				130%				143%				

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	1.26
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	10,128	9,743	9,843		
	会計年度任用職員	0	7,472	5,605		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	10,128	17,214	15,448		
	物件費計	15,759	14,385	13,525	27,011	50.1%
	歳出計	25,887	31,599	28,973		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	15,759	14,385	13,525	27,011	

5. 総括的分析

総括的分析	コロナ禍であったことから、昨年度ほどではないが、学校園に対して制限をかけた事業実施となった。各学校園ができる範囲の中で最大の取組みに努めたため、相当の実績を残すことができた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	教育課題の解決や教職員の資質向上に向けて、教育活動の活性化、公開授業の実施、校内・園内研修の充実をさらに図っていく。また、教育委員会主催事業については、子どもたちの学習の成果を発表する場等として、引き続き、実施していく。

事務事業実績測定調査

R4調書番号 420

事務事業名称	「まなびング」サポート事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち									
	実行計画名	16-1.自ら考え生きる力と学力を育む教育の推進									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2003(H15)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市立小中学校に在籍する児童、生徒			
	サブターゲット	教職員(枚方市立小中学校)			
	ターゲットが抱える課題	学習指導要領が求める学力を習得していない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	小・中学校学習指導要領で求められている学校教育を円滑に推進できる状態				
事業概要	小・中学校において、授業や放課後の時間に、教員を志望する大学生等を学習指導のサポーターとして配置し、児童・生徒の学習活動を支援する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		支援によって、児童・生徒の学力向上につながる。				教職を志望する大学生等が、授業や放課後に児童・生徒の学習活動を支援する。				小中学校において、「まなびング」サポート事業を実施する。			
指標説明	全国学力・学習状況調査における全国平均正答率から見た本市の平均正答率 【算出式:枚方市の平均正答率/全国平均の平均正答】				大学生等の参加人数				小中学校「まなびング」サポート事業実施校数				
	単位		倍		単位		人		単位		校		
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
	目標 (見込み)	1.01以上	1.01以上	1.01以上	1.01以上	96	96	96	96	64	64	63	63
	実績		0.98	0.99		92	118	91		38	41	40	
達成度	98%				95%				63%				

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.26
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.10
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	2,791	2,436	2,031		
	会計年度任用職員	0	0	204		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,791	2,436	2,235		
	物件費計	940	1,105	1,130	1,420	79.6%
	歳出計	3,731	3,541	3,365		
歳入	国庫支出金	432	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	516	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
		歳入計（物件費に充当される特定財源）	862	0	0	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	78	1,105	1,130	1,420	

5. 総括的分析

総括的分析	参加人数・実施校数ともに減少しているが、支援者である大学生等は目標としている人数に近い活用があった。 全国学力・学習状況調査における全国平均正答率からみた本市の平均正答率は上昇しており、当該事業がその一助になったものと受け止めている。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	サポーターの確保に努めながら、例年どおり、全校実施に向けて取組みを継続する。

事務事業実績測定調書

R4調書番号 421

事務事業名称	学校支援社会人等指導者活用事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち									
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2000(H12)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市立学校園に在籍、在園する園児、児童、生徒			
	サブターゲット	教職員(枚方市立学校園)			
	ターゲットが抱える課題	園児・児童・生徒の学習意欲や情操教育が育めていない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	幼稚園教育要領及び小・中学校学習指導要領で求められている学校教育を円滑に推進できる状態				
事業概要	各教科の指導補助、総合的な学習の時間、特別活動など優れた知識や技能を有する多様な人材を学校教育に活用することで、学校園と地域の連携を深め、幼児・児童・生徒の学習意欲の向上など、教育活動を活性化させる。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)	
	幼児・児童・生徒が多様な人材と 触れ合うことで、幅広い興味 が呼び起され、指導要領等 で求められている学校教育の 円滑な実施につながる。	優れた知識や技能を有する多 様な人材が幼児・児童・生 徒に関わる。	総合的な学習や特別活動など において、学校支援社会人等 指導者を活用した事業を 実施する。	
指標設定	指標説明	学校支援社会人等指導者を派遣 した回数	学校支援社会人等指導者活用 した学校園数	学校支援社会人等指導者登録 者数
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	目標 (見込み)	R2: 1,700, R3: 1,700, R4: 1,700, R5: 1,700	R2: 71, R3: 70, R4: 69, R5: 69	R2: 110, R3: 110, R4: 110, R5: 110
	実績	1,074, 1,431, 1,653.50	49, 55, 65	272, 205, 211
	達成度	97%	94%	192%

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.26
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.25
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	2,871	2,436	2,031		
	会計年度任用職員	0	56	510		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,871	2,491	2,541		
	物件費計	3,191	3,695	4,253	3,921	108.5%
	歳出計	6,062	6,186	6,794		
歳入	国庫支出金	818	0	1,167	1,045	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	818	0	1,167	1,045	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	2,373	3,695	3,086	2,876	

5. 総括的分析

総括的分析	令和4年度はコロナ禍で、臨時休業措置及び教育活動の計画の変更を余儀なくされる中であったが、いづらか規制等が緩和されたことにより、コロナ禍以前の教育活動が徐々に実施できてきたこと、相当数の指導者を確保できたことにより、現状でき得る範囲での活動は確保できた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	必要性を鑑みた上で指導者確保に努め、取組みを継続する。

事務事業実績測定調書

R4調書番号 423

事務事業名称	部活動指導協力者派遣事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち									
	実行計画名	16-2.快適で安心できる学習環境づくり									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的的事业	区分	一般事務事業
事業期間	1995(H7)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	教職員(枚方市立中学校)			
	サブターゲット	枚方市立中学校に在籍する生徒			
	ターゲットが抱える課題	顧問教員の負担が大きく、授業等に支障が生じている。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	顧問教員における授業等に割く時間の確保及び部活動の効果的かつ効率的な運営ができる状態				
事業概要	部活動の活性化と充実を図るとともに、顧問教員の時間的余裕を生み生徒指導や授業研究の時間を確保するため、各中学校に専門的な知識や技能を有する部活動指導協力者を派遣する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)
	顧問教員の負担が軽減され、生み出された時間をもって生徒指導等に充てる。	顧問教員が協力者と分担して、部活動を指導することができる。	中学校に専門的な知識や技能を有する部活動指導協力者を派遣する。
指標設定	指標説明	顧問教員負担軽減時間数(＝部活動指導協力者活動時間数)	1校あたりの部活動指導協力者活用日数
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	目標(見込み)	実績
	達成度	85%	85%

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.37
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.25
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	2,153	2,121	2,890		
	会計年度任用職員	0	56	510		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	2,153	2,177	3,401		
	物件費計	11,520	11,464	12,424	13,679	90.8%
	歳出計	13,673	13,641	15,825		
歳入	国庫支出金	2,692	0	3,145	3,638	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
		歳入計（物件費に充当される特定財源）	2,692	0	3,145	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	8,828	11,464	9,279	10,041	

5. 総括的分析

総括的分析	昨年度に引き続き、生徒の実情を踏まえて感染対策を講じた上で部活動を実施したことから、部活動指導協力者を相当回数派遣することができた。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	引き続き、顧問教員の負担軽減に向けて、本事業の活用を推進していく。

事務事業実績測定調査

R4調書番号 425

事務事業名称	枚方市小学生陸上競技大会・駅伝競走大会事業(枚方市小学生スポーツCarnival)													
測定年度	2022(R4)年度				部	学校教育部				課	教育指導課			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5				
総合計画体系	基本目標		3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち											
	施策目標		16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち											
	実行計画名													

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1998(H10)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市内の公・私立小学校の5年生及び6年生の児童(※) ※令和4年度は試行的に対象を1年生～6年生へ拡大			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	他校児童とスポーツを通して接する機会が少ない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	競技を通じて、他校児童との交流及び体力向上が図れる状態(※) ※令和4年度:他校児童との交流及びスポーツへの興味・関心を持ち自ら運動をする状態				
事業概要	市内小学校の児童が競技を通して交流を図り、スポーツをする喜びを感じてもらおうとともに、児童の体力の向上を図るため、小学校陸上競技大会及び小学生駅伝競走大会を実施する。(※) ◆市内小学校の小学校5年生・6年生の参加による陸上競技大会を10月に実施する。 ◆市立小学校の小学校5年生・6年生の参加による駅伝競走大会を11月に実施する。 ※令和4年度は、試行的に陸上競技大会と駅伝競走大会を統合し、対象者および競技種目を拡充した「枚方市小学生スポーツCarnival」を11月に実施する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		競技を通じて他校児童との交流や体力向上につながる。				小学校5・6年生が大会に参加する。				小学生陸上競技大会・小学生駅伝競走大会を開催する。			
指標設定	指標説明	大会を通じて他校児童との交流や体力向上が図られたと感じている参加者(4段階中4及び3)の割合【算出式: 肯定的回答/回答者総数*100】				両大会に対するのべ参加人数				両大会に対するのべ参加校数			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	60	60	-	-	1,350	1,374	-	-	91	91	-	-
	実績	0	0	-	-	0	284	-	-	0	31	-	-
達成度													
ロジックモデル②		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル②		参加児童がスポーツにより興味・関心を持ち、自ら運動をする。				小学校1年生～6年生が大会に参加する。				枚方市小学生スポーツCarnivalを開催する。			
指標設定②	指標説明	参加児童がスポーツにより興味を持ったと思う保護者の割合【算出式】肯定的回答/回答総数*100				参加人数				開催回数			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	-	-	60	60	-	-	405	756	-	-	1	1
	実績	-	-	58		-	-	363		-	-	1	

達成度	97%	90%	100%
-----	-----	-----	------

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.33
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

(千円)

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	正職員、再任用、任期付	479	471	2,578		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	479	471	2,578		
	物件費計	0	458	2,753	2,842	96.9%
	歳出計	479	929	5,331		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	
一般財源（物件費に充当されるもの）		0	458	2,753	2,842	

5. 総括的分析

総括的分析	陸上競技に加えて他の競技に触れる機会の提供を目的として試行実施した枚方市小学生スポーツCarnivalに全小学校から児童363名の自主参加があり、スポーツに関心を持ち自ら運動するきっかけとなる場として一定の成果が得られた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	見直し
今後の取り組み方針	令和4年度の成果等を踏まえて、より多くの児童が参加、交流ができ、スポーツに関心を持ち自ら運動するきっかけとなる事業となるよう、定員及び実施競技の拡大等を図る。

事務事業名称	学力向上基盤づくり調査研究事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち									
	施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち									
	実行計画名	自ら考え生きる力と学力を育む教育の推進									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	非選択的事業	区分	非選択的事務事業
事業期間	R3年度(2021年度)		年度	～	R4年度(2022年度)
根拠法令等	四：学力向上のための基盤づくりに関する調査研究委託要綱 府：学力向上基盤づくり調査研究事業実施要綱				
関係補助金名称			サンセット	～	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市立第四中学校在籍生徒			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	基礎的・基本的な言葉等の知識・理解や論理的に自分の考えを書くことなどの言語能力に課題がある			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	読解力などの言語能力や情報活用能力が育成され、向上した状態				
事業概要	<p>予測困難な未来を生きる子どもたちに必要な課題発見能力や課題解決能力等の育成に向けて、授業や家庭において一人一台配備したタブレット端末を意図的、計画的に活用し、読解力などの言語能力や情報活用能力等の育成、及び情報モラルの向上を図る。</p> <p>当該校(第四中学校)は、大阪府事業であるスクール・エンパワーメント推進事業の採択を受けた教員加配を受けていることから授業改善担当教員を指定し、当該教員を中心として学校と家庭における学習の在り方について取り組みの具体化を図り、授業等において実践していく。</p> <p>当該実践については、(仮称)枚方市ICT活用学力向上委員会(指導主事等で構成)や学識経験者による指導、助言、サポート、情報提供等を踏まえて、取り組みの検証・改善を継続して行う。</p> <p>また、当該実践については、中間報告として府域・市域の小・中学校に情報発信を行うとともに、最終報告を国(文部科学省)に対して行う。</p>				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
		チャレンジテスト記述式回答の正答率の向上				求められる資質、能力の育成に向けた研究授業の実施				
指標設定	指標説明	チャレンジテスト記述式回答の正答率				研究授業実施回数				
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				
	指標数値	目標 (見込み)					単位	%	単位	回
		実績								
	達成度	85%				100%				

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.02
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	—	157	156		
	会計年度任用職員	—	0	0		
	特別職非常勤	—	0	0		
	附属機関委員	—	0	0		
	人件費計	—	157	156		
	物件費計	—	437	785	785	100.0%
	歳出計	—	594	941		
歳入	国庫支出金	—	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	—	437	691	785	
	受益者負担（使用料、手数料）	—	0	0	0	
	市債	—	0	0	0	
	その他	—	0	0	0	
		歳入計（物件費に充当される特定財源）	—	437	691	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	—	0	94	0	

5. 総括的分析

総括的分析	チャレンジテストの記述式回答の正答率は目標値には未到達であったものの、言語能力の育成に向けて、生徒自身の考えを発表する活動や、生徒自身の考えを交流し考えを深化させる活動を意識的に取り組む等の活動を取り入れた授業を行ったことから、令和4年度2学期実施の生徒対象のアンケートにおける「自分の考えや意見を相手にわかりやすく伝えたりすることができるか」の質問肢に対して、第四中学校の肯定的回答が83.3%、第四中学校以外の平均が71.0%であったことから、成果が見られている。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	終了
今後の取り組み方針	大阪府の2ヶ年の受託委業であり、令和4年度をもって終了した。

事務事業実績測定調査

R4調書番号 537

事務事業名称	海外友好都市教育交流事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち									
	施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち									
	実行計画名	19-3.国際化施策の推進									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	1986(S61)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市立小中学校園に在籍する幼児・児童・生徒			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	全世界的な広い視野を持った思考や理解ができない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	海外友好都市の同世代の子どもたちとの交流により、愛国心や隣人理解、世界平和を願う心が育成される状態				
事業概要	<p>学校園において、上海市長寧区等の幼小中学校との文通や書画等の作品交流を実施することにより、次世代を担う子どもたちの、郷土や自国を愛し、隣人を理解し、世界平和を願う心を育成する。</p> <p>◆中国上海市等の海外の学校園との文通や書画交換等の友好交流を行う。</p> <p>◆友好交流締結校:山田中と天山中、西長尾小と天山新村第一小、高陵幼と愚園路第一幼</p> <p>◆友好交流校:菅原東小と霊巖郡嶋林初等学校、第四中と西延安中、長尾小と江蘇路第五小</p>				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)									
	言語や文化の異なる世界との接触を介して、愛国心や隣人理解につながる。	作品等を通じて、海外友好都市の同世代の子どもたちにふれあう。	本市学校園と海外友好都市学校園との間で文通や書画等の作品交流を実施する。									
指標説明	作品展の入場者数	交流を行った作品数	実施校園数									
	単位 人	単位 点	単位 学校園									
指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標									
指標数値	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5									
	500 500 500 500	200 200 200 200	71 70 69 69									
実績	0 0 1,473	195 0 308	28 0 45									
達成度	295%				154%				65%			

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.11
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.01
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	399	471	859		
	会計年度任用職員	0	0	20		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	399	471	880		
物件費計	0	0	0	0		
歳出計	399	471	880			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	
一般財源（物件費に充当されるもの）	0	0	0	0		

5. 総括的分析

総括的分析	中央図書館において、上海市長寧区児童書画展を開催し、多くの市民に見てもらえたことで、日中友好の一助になっているものと考えている。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	日中両国の友好関係の発展を促進し、枚方市と長寧区の友好関係を更に深め、二つの地域の友好交流活動を積極的に推進するために、引き続き本事業は継続していくものとする。

事務事業実績測定調書

R4調書番号 669

事務事業名称	学校版環境マネジメントシステム事業										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち									
	施策目標	27.地球温暖化対策に取り組むまち									
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	内部事務	区分	一般内部管理事務
事業期間	2005(H17)年度		年度	～	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市立学校園に在園、在籍する園児、児童、生徒			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	環境保全に対する意識が希薄である。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	園児・児童・生徒に、地球環境の保全をベースにした日常生活における行動態様が身に付いた状態				
事業概要	学校園において、教職員が率先して、学校園事務及び教育活動から生じる環境への影響を把握し、その改善や保全のための目的・目標を定め、実行し、その結果を点検し、定期的に見直すなど、PDCAサイクルを活用した枚方市独自の学校版環境マネジメントシステムを運用し、幼児・児童・生徒及び教職員の環境に対する意識の向上を図る。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
						幼児・児童・生徒等が学校における省エネルギー・光熱水の使用量の削減等を意識した行動を取るようになる。				学校版環境マネジメントシステムの運用を行う。			
指標設定	指標説明					二酸化炭素削減量が昨年度と比べて減った学校園数				運用実施校			
	指標種類					増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	目標 (見込み)					単位	学校園			単位	学校園	
		実績					R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4
	達成度					150%				100%			

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	0.19
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	1,595	1,493	1,484		
	会計年度任用職員	0	0	0		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	1,595	1,493	1,484		
物件費計	0	0	0	0		
歳出計	1,595	1,493	1,484			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	0	0	
一般財源（物件費に充当されるもの）	0	0	0	0		

5. 総括的分析

総括的分析	コロナ禍において、教室内の換気の徹底などの対応を実施したことにより電気使用量、ガス使用量、上水道使用量が増加し、二酸化炭素量の抑制ができていないことが少なからずあった。しかしながら、教室移動等で児童生徒が不在となった教室の消灯や冷暖房機器の電源OFFなどに以前よりも努めた結果、効果が見られた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	各学校園において教室移動等で児童生徒が不在となった教室の消灯や冷暖房機器の電源OFFなど様々な節電等の取組みを工夫しながら行い、教職員のS-EMS事業に対する意識の向上を図る。

事務事業実績測定調書

R4調書番号 901

事務事業名称	教育指導課運営事務										
測定年度	2022(R4)年度			部	学校教育部			課	教育指導課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4		R5	
総合計画体系	基本目標		9.施策体系外								
	施策目標		99.施策体系外								
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的事務	区分	庶務的内部管理事務
事業期間		年度	～		年度まで
根拠法令等	決裁等				
関係補助金名称			サンセット		～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	教育指導課職員			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	課の運営を円滑に図る必要がある。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	課の運営が円滑に行われている。				
事業概要	課の運営業務				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
指標設定	指標説明													
	指標種類													
	指標数値	目標 (見込み)												
		実績												
	達成度													

3. 人員体制 (人)

	R4実績
正職員	2.60
再任用	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.24
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

(千円)

4. 決算額

		R2決算額	R3決算額	R4決算額	(参考)R4予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	0	12,807	20,311		
	会計年度任用職員	0	557	490		
	特別職非常勤	0	0	0		
	附属機関委員	0	0	0		
	人件費計	0	13,364	20,801		
	物件費計	0	383	190	179	106.1%
	歳出計	0	13,747	20,991		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみを記載しています。
	府支出金	0	200	0	0	
	受益者負担（使用料、手数料）	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	200	0	0	
	一般財源（物件費に充当されるもの）	0	183	190	179	

5. 総括的分析

総括的分析	令和3年度と比較して人員総数が微増したことと課内業務分担の見直しに起因する人員配置比率の変更に伴った人件費の上昇が発生している。また、物件費が大幅に減少しているが、これは令和3年度が大阪府からの受託事業を受けて増大していたためであり、受託事業を除いた物件費については大幅な変動はない。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取り組み方針	今後も課の効率的かつ円滑な運営に努める。